

瀬戸内みらい会議（地域づくり関係者）

平成 21 年 11 月 24 日（火）19 時～21 時

瀬戸内市役所 2 階 中会議室

参加者：自主防災組織、コミュニティ協議会、まちづくり・環境衛生・消費生活団体から男性 8 名、女性 2 名

市民から出た意見と市長の反応

- ・平素は行政委員として市民の意見を市に伝達している。
- ・10 月 25 日に自治会単位で避難訓練を実施した。避難場所への避難から始めて市民の防災意識を高めるのが目的。84 戸中 48 戸 70 名の参加が得られた。次年度は、地区をまとめて避難訓練を実施したいと考えている。市民の防災意識を高めることが重要だが、まだ低いのが現状。先日、市の消防本部にも講話を頂いた。起震車体験も実施した。こういった取り組みを他地区でも実施して欲しい。まずは自治会、小学校区単位などの小さな単位で防災意識を高めていくことが必要ではないか。災害に強いまちを実現していく上では極めて重要である。
- ・避難をした後に、家の玄関に黄色い印を付けるような工夫もしている。
- ・地区コミュニティ協議会の事務局長。勤めに出ていたときには、地域活動には熱心ではなかった。2 年弱コミュニティ活動に携わってみて、このような活動の重要性を痛感した。コミュニティセンターが汚かった（3K）ため、改善したところ稼働率を高めることにつながった。自分が動くことによって地域が変わる。1 年を経過した頃から人の意識も変わってきた。コミュニティを活用することによって、人の意識が随分と違ってくる。
- ・文化面では、広い意味での文化を育成していくべきであろう。古い面（夢二など）ばかりにとらわれず、『今育っている文化』にも目を向けて欲しい。何かきっかけとなる取り組みに対しては、多額でなくても補助を継続的に実施していくことも重要だと思う。
- ・人口減少・高齢化により、空き家等が増加する中で、由緒ある街並みを維持する取り組みを行っている。人口減少の中で、住民にも「もうダメだ」という意識（マイナスのスパイラル）が出てきてしまうため、地域の良さに気付き、地域の自信と誇りをつなぎとめていくことが必要と考えている。活動主体は多様だが、それぞれをつなぎ合わせて、連合体を産み出す役割を担いたいと考えている。
- ・愛知淑徳大学谷沢彰先生が 11 月 22 日に室津で講演されたが、室津は目指し

ているところが高く参考になる。

- ・京都橘女子大の池上先生との議論。高いところに目標を据えて、それに向かって活動しているようなまち、何か（Something else）を持っているまちの価値は高く、長続きする。また、それによって住んでいる人の自信も生まれてくるということが重要である。
- ・現代はネットワーク社会。価値のある情報に対しては、対価を支払ってでも来るので、そのための基盤を作っていくことが重要である。

- ・東京で仕事をして、16 年前にリターン。
- ・市民の関心が高いのは、行政というよりも、身の回りの目に見えるもの（狭い範囲）ではないか。
- ・備前福岡は、中世に栄えてその後寂れた。福岡は、史跡の保存や福祉のまちづくりなど、活動をするメンバーは豊富で、それらの人たちや農業・商工業者を巻き込んで、800年ぶりに『福岡の大市』を復活させた。活性化に向けては、人・モノ・カネの流通が重要ということを改めて再認識した。
- ・30年後のことを考えると、子供たちが住み続けられることが重要。そのためには、自立した地域（小さいレベルで）の連合体であることが望ましい。
- ・協働の枠組みから様々な問題が提起され、それに対して行政がどのように対応していくかということを自立的に考え、政策化していくような流動的な行政が実現すると良いと考えている。

(市長) 文化への投資はお金の無駄遣いのように言われるが、投資効果はある。質の高い文化は質の高い情報から生まれる。それが地域への誇りにつながる。

- ・人と人とのつながりのある地域、まちということが重要である。しかし、足元を見てみると、声をかけ合うことも少なくなっていた。一番は、大人であれ、子供であれ、一緒に集まることではないか。一つの切り口として、趣味があると考え、菊づくりを通じて同じ地域の人との会話の場を持ち、輪を広げようと考えたのが会を設立した趣旨である。どの地域であっても、活動の基本は人と人とのつながりである。目指すべきところは、「今その地域に住んでいることが良いと思われているまち」、そして一定期間住んでみて、最終的には「ここに住んでいて良かったと思われるまち」になることだろう。

- ・町内会と同範囲で、まちづくりのための組織を運営している。最近、3世帯が町内会活動に新規に参加したが、この地域は比較的出入りの少ない地域である。
- ・会の活動の一つは、資源ゴミの回収で、報奨金がカットされたのは残念である。他にも、菖蒲園の管理や花いっぱい運動、もちつき大会（独居老人への配布等）を実施しており、それぞれが年代に応じた活動母体（子供クラブ→

青壮年部→実年部→老人クラブ）を持っている。希望としては、活動に対する支援を多少なりともお願いしたい。例えば、夏の炎天下の活動に対して、お茶代程度は出して欲しい。

- ・現代は、大型環境時代に入ってきている。環境問題は、時代の進展に伴い複雑化、深刻化している。
特に、環境ホルモン、ダイオキシンの問題については、行政の対策が必要である。

一口に環境ホルモン、ダイオキシンと言っても、環境ホルモンは、WHO（世界保健機関）では 80 種類、日本では 78 種類あり、人体に有害な物質は 5 項目。ダイオキシンは、233 種類あり、人体に有害な物質は 7 項目ある。

瀬戸内海では、平成 9 年から 12 年まで背骨が曲がった魚が獲れたという問題が出た。この問題については環境ホルモンの一種である PCB（ポリ塩化ビフェニル）による汚染ではないかと指摘した。化学薬品を使用する工場や、クリーニング工場等への対応が特に重要であり、国に対して問題提起をしたことがある。ダイオキシンを含む環境ホルモン対策について、指導・啓発が必要であり、行政自らが力を入れていく必要がある。

（市長）市民の皆さんの意識が CO2 対策に向いている中で、環境ホルモン対策についても依然重要なことであると考えている。

- ・長年環境衛生問題に取り組んでいるが、平素から環境に対する家庭教育が重要である。
- ・裳掛地域に住んでいるが、最近では市内で最も過疎に近いのではないかと。以前は、愛生園、光明園から落ちるお金も大きかった。最近特に問題なのは、学校の問題。人口も減り、子供をはじめとして若い人がどんどん減っていった。学校があるかないかで、当該地区が過疎になるかどうかが変わってくる。今後、学校が統合されるようになると、ますます過疎化が進むのではないかと懸念している。
- ・交通の便が悪いため、医者にもタクシーで行く等の不便ゆえの不利益（病院に行くのが面倒だから我慢する等）が生じているのではないかと。福山市では、低床バスをぐるぐる回している、参考になるのではないかと。
- ・愛生園、光明園についても、将来像が見えないのは問題。今後将来に夢が持てるような施設のあり方について考えるべきではないかと。それによって、地域の存続も変わってくると思う。
- ・東京から牛窓に移り住んで 21 年。もともと、古い街並み地図などを作る活動をしてきた。
- ・暮らしから文化を、暮らしに文化を。当時のアイディアは、

- 1) 歌声喫茶
- 2) 牡蠣の京橋朝市での販売
- 3) がらくた市

いずれも好評で、75 万円が集まった。その際に、自分たちが動けば、行政にお願いしなくてもお金が集められるということがわかった。また、当時は、牛窓をスケッチした絵葉書がなかったため、セミプロにお願いして観光センター等で販売したところ、これも好評で資金がどんどん貯まった。

- ・牛窓文化月間を実現する会を運営。当時、役場主導のイベントは寂しかったため、市民の手で運営できるものについて提案した。横のネットワークを作り、分担金 3,000 円で共通のカレンダーを作るようになった。平成 21 年度で 19 回目となる。
- ・一つひとつのイベントは小さくても、それが積み重なると大きいパワーになる。取り組みの中で分かったのは、待っているのではなく、自分で考えて作りだしていくことの大切さ。大変ではあるが、嬉しい体験につながる。
- ・自然が残っているというのが最大の財産と感じている。
- ・食の安全、環境問題、消費者教育が活動の三本柱。会員は、女性のみ 71 名。
- ・上勝町に研修旅行を実施。生ごみをいかに減量していくかということが、現在の重要なポイント。まずは会員がいかにゴミを減らしていけるかという課題に取り組み、現状では、会員のゴミが 1/3 程度減っている。あとは、雑紙と生ゴミをどうするかだと思っている。環境フェスタに、活動成果を出していきたいと考えている。
- ・相談活動をしているが、まだ積極的な参加を得られていない。身近なところへ相談に行くのは恥ずかしいと思っている人が多い。そうした垣根を取り除きたい。
- ・食の安全の観点から、地産地消の取り組みも積極的に行っている。

(副市長) 皆さんから様々な取り組みについてお聞きした。現場ごとの取り組みを市全体に広げること、また、あらゆる世代に理解を求め、市全体に広げていくこと、さらには、様々な取り組みをつなげていくことも重要であると感じた。何か、世代間に広げる取り組みを実施していることがあれば教えてほしい。

(市長) 今日お聞きした活動から、行政の役割も見えてきたと思う。

○先を示すこと (愛生園・光明園の将来像、補助金の問題等)

○枠組みを示すこと

また、積極的に活動する以外の人に何を求めていくか。市に何ができ、市民に何ができるかを考えていくことも重要な課題となる。

- ・ 備前福岡で2つの取り組みをしている。1つは農業。『親子田んぼと食べ物学校』という取り組みがあり、農業体験と学習、販売までつなげている。もう1つは『食育連携教育』（例：味噌教室、野菜料理教室、牡蠣料理教室等）。健康づくり推進課が作った食育基本計画をベースにしている。また、社会教育課の家庭教育学級のメニューにも入れてもらっている。また、協議会とも重なる部分があると考えている。

- ・ 行政は、平等や公平が原則ではある。しかし、施策を牛窓に当てはめたら、不平等という意見が出てくるだろうと思うが、『悪平等』というのは良くない。人のレベルが落ちてくる。そこをどのように整理したら良いのか？

(市長) いわゆる「バラマキ（広く薄く）」というのが『悪平等』。活きたお金の使い方をしてくれるところに来るだけ配分したいと考えているし、そこが他を引っ張ってくれることに期待をしているところである。まちづくりをしていく上では、選択と集中ということは避けて通れない。

- ・ 行政と市議会の関係が良く分からない。市としての意思決定は、誰がどう決めるのか。

(市長) 誰がどの立場で働きかけをしていくのかという問題と理解する。会社組織と違って、利害関係者が多いので、その点をどのように調整していくかが重要と考えている。関係者の巻き込みをどう図っていくかという点も含めて腕の見せどころと考えている。

- ・ 常に住民、市民の願いがどこにあるのかという方策を取り続けて欲しいと考えている。さらに、住民の本音が聞けるのは、活動を通じてだと考えている。それぞれの地域での活動に、出来るだけ顔を出してもらって、その活動の中で本音を聞き出すようなことをやって欲しいと考えている。

- ・ 世代間の取り組みという点で、子供に対して環境教育を実践するような取り組みを是非行ってほしい。

- ・ 市ホームページに『市長室にようこそ』というコーナーがあるが、反応が見えないのは残念。回答はできないにしても、意見が届いたことぐらいは返事がほしい。行政側から反応がないと誰もものを言わなくなる。

- ・ お金の使い方、時期については良く考えて欲しい。補正予算がとれたからといって、暑い時や寒い時に利用者のことも考えず平気で冷暖房の工事を行うなどはおかしいこと。なぜ当初予算で対応しないのか、ロジックが分からない。